

令和7年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(本郷小学校)

平均正答率

1 自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
本郷小	下回った	上回った	上回った	下回った	上回った	上回った
埼玉県	52.5	62.8	59.3	66.2	48.3	52.4

2 自校の学力レベルと県の学力レベル

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
本郷小	5-B	6-A	7-B	4-B	5-A	6-A
埼玉県	5-B	6-B	7-C	4-A	5-B	6-C

3 自校の学力の伸びと県の学力の伸び

教科	国語			算数		
学年	小4	小5	小6	小4	小5	小6
本郷小		2	1		2	2
埼玉県		3	2		2	2

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値(単位 %)

		小4		小5		小6	
質 問 事 項		本郷小	埼玉県	本郷小	埼玉県	本郷小	埼玉県
深谷の子6つの誓い	・将来の夢や目標を持っている	96.6	90.6	91.7	88.5	96.7	83.9
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	75.9	78.6	72.2	77.0	77.5	77.4
	・自分からはっきり挨拶をすることができる	86.2	81.5	88.9	82.0	90.3	84.5
	・脱いだはき物のかかとをそろえることができる	75.9	77.7	88.9	80.7	77.5	87.4
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉遣いができる	79.3	85.4	91.7	87.0	93.5	89.4
	・勉強するときは、最初に計画を立ててから始める	69.0	54.2	58.3	49.2	64.5	51.5
	・休日などの学校が休みの日に1日当たり1時間以上勉強している(塾等を含む)	55.1	52.8	61.1	54.1	54.9	53.9
学習等への関心	・授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じた	75.9	75.6	80.6	76.0	86.7	77.5
	・将来どの学校まで進みたいと思いますか【大学以上】	34.4	34.4	30.5	33.8	22.6	37.5
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	62.0	73.5	77.8	70.5	80.6	66.5
授業について	・授業を通して学んだ内容についてさらに詳しく知りたい、学びたいと思った	86.2	78.6	71.8	74.1	74.2	69.0
	・課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをもてるようになった	62.0	75.9	80.5	79.8	77.4	80.3
	・国語や算数の授業で、週1～2回程度以上タブレットを使っていた(2項目の平均として)	56.9	45.1	27.5	48.9	61.2	57.1
	・昨年度、週2回以上、タブレットを家に持ち帰って、宿題含めて学習に利用した	41.3	21.5	38.9	24.4	54.8	23.4
その他	・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれた	96.9	94.2	91.7	94.8	96.8	94.8
	・学校の友達は自分のよいところを認めてくれた	79.3	85.3	94.4	90.0	90.3	92.4
	・学級での生活は楽しい	96.9	94.4	88.9	92.8	90.3	92.3

【質問紙分析】

- ・将来の夢や目標をもっている児童は、3 学年とも県の平均より高く、どの学年も 90 % を超えている。また、自分から挨拶できる児童も 3 学年とも県の平均より高い。これは、「深谷の子 6 つの誓い」を様々な場面で意識できるような声かけを行っている成果だと考えられる。
- ・「地域の歴史や自然に関心をもっている」という問いに対して、学年が上がるごとに数値が上がっているのは、社会科での学びや総合的な学習、そして地域との行事を積み重ねてきたためだと考えられる。
- ・家庭において、タブレットを学習に利用している児童も多く、学習ツールとしてのタブレット活用が定着しつつある。
- ・脱いだ履物のかかをとを揃えることができる児童の割合が、3 学年とも県の平均以下でもあり、学校評価でも同じような結果が保護者アンケートからも見られるため、くつ揃えを習慣化する指導を児童会中心に行っている。

伸びが見られた学級・教科での取組

【学級】

- ・学校研究課題を「ICT を効果的に活用した指導の工夫」として全職員で研修を深め、授業に活かせるよう取り組んでいる。日々の授業の中では、調べ学習や反復練習での活用が多く、児童は積極的に活用していた。
- ・深谷市の学力向上プロジェクトや 5 年生の GKT（学力向上テスト）を活用し、解き直し（解説、再テスト）を丁寧に行っていた。
- ・国語において力をのばした学級では、タブレットでの学習に加え、「書くこと」にも重点を置き、指導を行っていた。
- ・児童に向けてのアンケートや担任との会話から安心して学べる教室環境を作り、できたことや努力をしている児童を称賛する場面を多く作っていた。

【国語】

- ・国語の平均正答率が県を上回っているのは、学校全体で読書活動の推進を行ったり、日記や授業での振り返りを書く活動を多く取り入れたりしてきた成果だと考えられる。
- ・職員研修において、自校の弱点が「条件に沿ったわかりやすい文を書くこと」であることから、「書く」ことを評価する単元をピックアップし指導計画に加え、指導に活かした。

【算数】

- ・本校の学習スタイルで指導を行いながら、問題提示場面の工夫や ICT の効果的活用、対話場面の設定を実践している。
- ・研究授業を行い、指導者のアドバイスを活かした授業を行った。
- ・算数においては、基礎基本だけではなく、問題の解き方を式と言葉で説明することを授業の中でしっかりと指導していた。

一人一人をより伸ばすための取組

- ・学調結果（学力分析データ）からの児童の実態把握
- ・授業後の適応問題において、タブレット（ドリルパーク）を活用した習熟度にあった課題を出すこと。
- ・個別最適な学びを実現するための職員研修（全国学力状況調査や埼玉県学力学習状況調査等からの分析）
- ・学習指導をしている職員で、毎月末に「学習規律の視点 10 則」「学習指導の視点 10 則」のシートで、児童に対する見届けについての振り返りを実施